

鈴鹿 高専

ポケットガイド

2025



NIT (KOSEN), Suzuka College

NATIONAL INSTITUTE OF TECHNOLOGY (KOSEN), SUZUKA COLLEGE

大学改革支援・学位授与機構高等専門学校評価基準認定校



独立行政法人国立高等専門学校機構

鈴鹿工業高等専門学校



基本理念

建学の精神

創設以来、“技術者はすべからく紳士・淑女たれ”という考え方が本校の教育の基底にある。専門教育の一層の高度化や創造力の育成が強く求められる現代であっても、知・徳・体バランスの取れた人間教育（全人教育）を重視することには変わらない。それが鈴鹿高専の建学の精神である。

本校の使命

本校は、技術者養成に関する地域の中核的教育機関として我が国の産業の発展を支え、グローバルに活躍する人づくりと、新しい価値の創造により広く地域と社会の発展に貢献する。

教育理念

- ① 広い視野から価値判断ができ、技術者精神を備えた豊かな人間性を涵養する。
- ② 科学技術に関する高い専門知識と技術に基づく深い洞察力と実践力を育成する。
- ③ 未知の問題に果敢に挑み、新たな価値を創造する力を育てる。
- ④ 心身を鍛え、己を確立し、自ら未来を切り拓く力を育てる。

養成すべき人材像

- ① 生涯にわたり継続的に学修し、広い視野と豊かな人間性をもった人材
- ② 高い専門知識と技術を有し、深い洞察力と実践力を備えた人材
- ③ 課題探求能力と問題解決能力を身につけた創造性豊かな人材
- ④ コミュニケーション能力に優れ、国際性を備えた人材



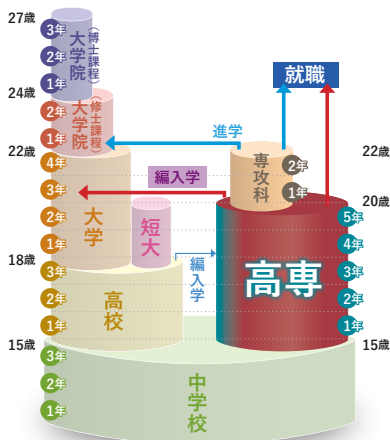
求める入学志願者像

- ① 中学における学習内容をしっかりと理解している人
- ② 数学や理科に興味を持ち、科学の発展に夢を持っている人
- ③ 何事にも積極的に挑戦する意欲があり、自ら進んで学習できる人
- ④ 他人を思いやり、協調していける人



高専制度

5年一貫の教養教育及び実践的工学教育により、創造性豊かな実践的技術者として将来活躍するための基礎的な知識と技術及び生涯にわたり学習する力を身に付けた人材を育てます。





学 科 教 育



機 械 工 学 科

産業界が求める創造的な実践的技術者を目指すために、機械工学に関する基礎理論と専門知識、モノ創りに必要な機械加工技術や設計法を学びます。さらに、ロボットやIoTを活用したシステムの構築や導入に必要なメカトロニクスに関連した知識・技術も習得します。



電 気 電 子 工 学 科

電力供給や鉄道などの社会インフラから、デジタル家電やスマートフォンなどの電化製品・電子機器の設計・生産をはじめ、機械・化学・食品・ICT産業などの分野で活躍できる電気電子技術者になることができます。本学科は、第2種電気主任技術者の認定対象学科です。



電 子 情 報 工 学 科

プログラミングや計算機アーキテクチャ、ネットワークやOSなどソフトウェア系分野と、電磁気、電気回路、電子回路、デバイスなどハードウェア系分野、およびソフトウェアとハードウェアの融合領域に関する知識を学びます。マイコンやFPGA、深層学習等を用いた技術も習得します。



生 物 応 用 化 学 科

工業化学を学ぶ「応用化学コース」と生物工学を学ぶ「生物化学コース」があります。両コース共に医薬・化粧品などのファインケミカルズ、プラスチック、環境保全などに関連する基礎から応用までの幅広い知識や技術を習得するほか、最新の化学理論とバイオテクノロジーをそれぞれ学びます。



材 料 工 学 科

生活に欠かせないスマートフォン、テレビなどの家庭用品から、次世代の自動車、鉄道、航空機やロケットまで、新しい材料が未来を創ります。ものづくり産業をはじめ、エネルギー事業、情報化社会、環境保全など、未来を切り拓く材料の知識と評価・分析技術を学ぶ学科です。





専攻科教育



より高度で幅広い専門知識と研究開発能力、 問題解決能力を身につける

技術革新を担うことができる高度で幅広い専門知識を習得させるとともに、研究開発能力、課題探求・問題解決能力、技術者倫理を含む総合的判断力、英語によるコミュニケーション能力の育成を図り、技術開発の場で新たな価値を創造する力を育てます。

また、学科と専攻科の所定の要件を満たし、大学改革支援・学位授与機構の審査に合格することで、修了時に大学卒業と同等の学位（学士）が授与されます。

総合イノベーション工学専攻

本専攻は、「環境・資源コース」「エネルギー・機能創成コース」「ロボットテクノロジーコース」の3コースがあります。令和2年度からは、豊橋技術科学大学と連携して「先端融合テクノロジー連携教育プログラムコース」も開始しました。

環境・資源コース

環境・資源コースでは、地球温暖化に代表される環境問題への対応策の構築、自然環境の破壊を抑制する環境保全、バイオマス・鉱物・水等の各種天然資源の有効利用、環境調和型資源リサイクルによる循環型社会の構築等を行うために、幅広い分野の中から複数の分野を融合・複合させた分野横断型の実践的技術者を育成します。

エネルギー・機能創成コース

エネルギー・機能創成コースでは、次世代の新エネルギー開発、その安定供給、輸送や利用における効率化や関連機能材料等に関わる技術開発を行うために、幅広い分野の中から複数の分野を融合・複合させた分野横断型の実践的技術者を育成します。

ロボットテクノロジーコース

ロボットテクノロジーコースでは、自身の専門分野を軸としてロボットを構成する技術を高度化し、イノベーションの創出や革新的な応用技術を社会に還元するために、幅広い分野の中から複数の分野を融合・複合させた分野横断型の実践的技術者を育成します。

先端融合テクノロジー連携教育プログラムコース

先端融合テクノロジー連携教育プログラムは、鈴鹿高専と豊橋技術科学大学が互いの強みをもつ教育資源を有効活用しつつ、地域等の社会で活躍することができる分野横断型の実践的技術者を育成することを目的とし、連携・協力して実施するものです。



グローバルエンジニアプログラム

今後ますます深化するグローバル化、ボーダレス社会において国際的に通用する高度な技術を持ち、リーダーシップを兼ね備えた人材を養成します。

学科第1学年から専攻科2年次までの7年間でグローバルエンジニアとして求められている英語力、交渉力、企画力、実行力、経営力、マネジメント力についても学びます。さらに、専門分野の異なる学生が共に課題に取り組むことにより順応力および強靱さ、優れた人間力を涵養します。



沿革

- 昭和37年 4月 1日 鈴鹿工業高等専門学校の設置（機械工学科、電気工学科、工業化学科の3学科で発足）
- 昭和41年 4月 1日 金属工学科を設置
- 昭和61年 4月 1日 金属工学科を材料工学科に改組
- 平成元年 4月 1日 電子情報工学科を設置
- 平成 2年 6月 5日 アメリカ・オハイオ州立大学工学部と学術交流協定を締結
- 平成 3年10月 9日 カナダ・ジョージアンカレッジと学術文化交流協定を締結
- 平成 5年 4月 1日 専攻科（電子機械工学専攻、応用物質工学専攻）を設置
- 平成 9年 4月 1日 工業化学科を生物応用化学科に改組、生物化学及び応用化学の2コース制を開設
- 平成14年 4月 1日 共同研究推進センター発足
- 平成15年 4月 1日 電気工学科を電気電子工学科に改組
- 平成16年 4月 1日 文部科学省から独立行政法人国立高等専門学校機構へ移管
- 平成16年 5月10日 技術者教育プログラム「複合型生産システム工学」が日本技術者教育認定機構（JABEE）から認定
- 平成18年 3月20日 高等専門学校評価基準を大学評価・学位授与機構から認証
- 平成18年 4月18日 中国・常州信息職業技術学院と学術文化交流協定を締結
- 平成19年 4月 1日 一般科目を教養教育科に改組
- 平成24年11月26日 大阪大学工学部・大学院工学研究科と教育研究交流に関する協定、実習生派遣に関する覚書を締結
- 平成25年 3月27日 高等専門学校評価基準を大学評価・学位授与機構から認証
- 平成29年 4月 1日 専攻科（電子機械工学専攻、応用物質工学専攻）を1専攻（総合イノベーション工学専攻）に改組
- 平成29年11月10日 ドイツ・ハノーファー大学電気工学及びコンピュータ科学部と学術交流協定を締結
- 平成30年 2月 9日 モンゴル工業技術大学と連携協力に関する協定を締結
- 平成30年 2月16日 鈴鹿医療科学大学と研究交流に関する協定を締結
- 平成31年 3月27日 高等専門学校評価基準を大学改革支援・学位授与機構から認証
- 令和 2年 4月 1日 豊橋技術科学大学と連携して先端融合テクノロジー連携教育プログラムを開始
- 令和 3年 2月25日 ロシア・ハバロフスク地方教育発展研究所と協力協定を締結
- 令和 3年11月26日 フィンランド・トゥルク応用科学大学と交換留学生プログラム協定を締結
- 令和 4年10月29日 創立60周年記念式典を挙行
- 令和 5年 2月27日 電子情報工学科棟の改修工事が完成
- 令和 5年11月17日 フィンランド・トゥルク応用科学大学と学術交流協定締結



目標

1 教育に関する目標

【学科教育】

5年一貫の教養教育及び実践的工学教育により、創造性豊かな実践的技術者として将来活躍するための基礎的な知識と技術及び生涯にわたり学習する力を身に付けた人材を育てます。

【専攻科教育】

より高度で幅広い専門知識や創造力、判断力を身に付け、科学技術の分野でグローバルに活躍できる実践的技術者を育てます。

2 研究に関する目標

教育内容を学術の発展に即応させるため、継続して研究を行います。そのために必要な学術的研究のみならず先進的な研究、学科間を越えた複合・融合領域研究、産学官連携による共同研究・受託研究も推進します。これらの研究成果を発表や知的財産化等で広く社会に提供し、人材育成及び地域・産業界に貢献します。

3 社会との連携や国際交流に関する目標

地域交流・地域連携・産学官連携等を通じて本校の教育研究の成果を社会に還元し、その連携協力を努めます。また、地域の生涯学習機関としての役割を果たします。

さらには、外国の高等教育機関との協定に基づく学生の国際交流を継続発展させ、国際的な視野と知見を備えた技術者の育成を図るとともに、留学生の受入れを積極的に行います。



収入・支出 (令和5年度)

収入	(千円)	支出	(千円)
運営費交付金	126,634		
授業料等収入	253,929	業務費	391,151
産学連携等研究収入	28,731	産学連携等研究費	33,091
寄附金収入	46,611	寄附金事業費	32,476
その他補助金収入	329,759	その他補助金事業費	327,911
合 計	785,664	合 計	784,629



学 生 数 (令和7年4月1日現在)

学 科	定員	1年	2年	3年	4年	5年	合計
機 械 工 学 科	40	44	41	45	44	34	208
電気電子工学科	40	46	42	42	44	38	212
電子情報工学科	40	42	46	44	38	38	208
生物応用化学科	40	42	44	44	41	45	216
材 料 工 学 科	40	42	44	44	39	39	208
合 計	200	216	217	219	206	194	1,052

専 攻 科	定員	1年	2年	合計
総合イノベーション工学専攻	24	26	33	59



教 職 員 数 (令和7年4月1日現在)

校長	教授	准教授	講師	助教	再雇用 教員	事務 職員	技術 職員	再雇用	合計
1	33	26	8	1	4	30	16	4	123



教 員 一 覧



職名	学位	氏 名	専門分野
校 長	博士	藤本 慎司	金属表面科学・ 腐食防食

職名	学位	氏 名	専門分野
----	----	-----	------

機械工学科

教 授	博士	近藤 邦和	流体工学
教 授	博士	民秋 実	機械力学
教 授	博士	藤松 孝裕	熱工学
教 授	博士	白井 達也	ロボット工学
特任教授	博士	末次 正寛	材料力学・破壊力学

准教授	博士	白木原香織	材料強度学
准教授	博士	打田 正樹	制御工学
准教授	博士	鬼頭 みずき	伝熱工学・流体工学
准教授	博士	長谷川賢二	流体力学・宇宙物理学
准教授	博士	松枝 剛広	トライボロジー・材料科学

電気電子工学科

教 授	博士	川口 雅司	情報処理工学
教 授	博士	辻 琢人	半導体工学
教 授	博士	西村 一寛	磁性材料・磁気工学
准教授	博士	柴垣 寛治	プラズマ理工学・ 量子エレクトロニクス

准教授	博士	山田伊智子	半導体工学
准教授	博士	西村 高志	表面電子物性工学
准教授	博士	生田 智敬	非線形工学
准教授	博士	橋本 良介	磁性材料・ 非破壊検査工学

職名	学位	氏 名	専門分野
----	----	-----	------

電子情報工学科

教 授	博士	伊藤 明	電子計測・ バイオメカニクス
教 授	博士	田添 文博	自然言語処理
教 授	博士	箕浦 弘人	バーチャル リアリティ
教 授	博士	森 育子	環境電磁工学
教 授	博士	青山 俊弘	情報工学・生理工学
嘱託教授	博士	飯塚 昇	無線通信工学

職名	学位	氏 名	専門分野
----	----	-----	------

准教授	博士	板谷 年也	計測工学・ 非破壊検査工学
准教授	博士	岡 芳樹	コンピュータ グラフィックス
講 師	博士	桑野 一成	ゲーム理論・ 機械学習
嘱託講師	修士	平野 武範	情報工学
助 教	博士	遠藤 健太	解析の整数論・ 非破壊検査工学

生物応用化学科

教 授	博士	下野 晃	無機材料化学
教 授	博士	船越 邦夫	化学工学・ 結晶化学
教 授	博士	平井 信充	界面制御工学・ 電気化学
教 授	博士	山本 智代	機能高分子化学・ キラル分析
教 授	博士	高倉 克人	構造有機化学

教 授	博士	山口 雅裕	発生生物学 比較内分泌学
准教授	博士	淀谷 真也	高分子合成化学
准教授	博士	小川亜希子	動物細胞工学・ 生物化学工学
准教授	博士	甲斐 穂高	環境科学・排水処理
准教授	博士	今田 一姫	分子細胞生物学・ 分子遺伝学・微生物学

材料工学科

教 授	博士	下古谷博司	低負荷型環境材料
教 授	博士	南部 智憲	金属物理・ 合金設計
教 授	博士	和田 憲幸	無機材料化学・ 分光分析
教 授	博士	黒田 大介	加工熱処理学・ 金属組織学
教 授	博士	万谷 義和	金属組織学

准教授	博士	黒飛 紀美	バイオマテリアル工学
准教授	博士	小西 宏和	電気化学・物理化学・ 材料化学
准教授	博士	幸後 健	無機材料・ 電気化学
講 師	博士	東條 敏史	有機合成化学・ 創薬化学

教養教育科[人文社会]

教 授	修士	久留原昌宏	日本近代文学・ 短歌創作論
教 授	修士	石谷 春樹	日本近代文学
准教授	博士	藤野 月子	中国古代外交史

准教授	博士	熊澤 美弓	日本近世文学・ 近世文化史
講 師	博士	松岡 信之	政治学・ 日本政治史

教養教育科[自然科学(数学)]

教 授	博士	堀江 太郎	整数論・保型形式
教 授	博士	大貫 洋介	代数学 (多元環の表現論)

教 授	修士	川本 正治	数学教育学
准教授	博士	飯島 和人	代数学
講 師	博士	菊池 翔太	関数論

教養教育科[自然科学(理科)]

教 授	博士	仲本 朝基	原子核理論
嘱託教授	修士	山崎 賢二	触媒化学
准教授	博士	丹波 之宏	生物物理学

准教授	博士	三浦 陽子	固体物理学
講 師	博士	園田 昭彦	統計物理学

教養教育科[外国語]

教 授	修士	林 浩士	英語教育学
教 授	修士	日下 隆司	アメリカ文学
教 授	博士	古野 百合	イギリス文学

准教授	博士	マイケル・ローソン	社会学
准教授	修士	松尾江津子	イギリス文学
講 師	修士	長井 みゆき	TESOL・英語学

教養教育科[保健体育]

教 授	学士	船越 一彦	トレーニング理論
講 師	修士	宝来 毅	スポーツ バイオメカニクス

講 師	修士	青柳 唯	スポーツ運動学
-----	----	------	---------



特色ある教育事業等

卓越したグローバルエンジニア育成事業

国際インターンシップ、産業界と協働のグローバル・リーダー論、英語力向上、地域との連携等の取り組みを中心とした「グローバルエンジニアプログラム」を強力に推進し、専攻科の高度化に呼応した「卓越したグローバルエンジニア」を養成します。



産学官連携を含めた半導体人材育成事業

高専機構の半導体人材育成事業に採択され、企業や自治体とも連携して半導体教育の強化を進めています。全学教育プログラムを整備したほか、工場見学・インターンシップ・特別講義を拡充しており、半導体産業を支える人材育成に努めています。



小中高専連携による個別最適なダイバーシティ型STEAM教育

令和4年度以降、高専機構の事業に採択され地域の小中学生の科学・工学への興味関心の向上と女子生徒の理系への進路選択の意識付けを目的とし、様々な公開講座・出前授業を実施してきました。

令和6年度より、早期STEAM教育拠点校として、「高専生と共につくる！理工系人財の早期発掘のためのSTEAM教育プログラムの構築」として、小中学生が興味を持って学び続ける力を涵養する機会・題材の提供を行っています。参加生徒にスキルや知識が身についたと感じてもらえる公開講座・出前授業の開発と実践により、将来理工系人財として活躍してくれる人が増加することを期待しています。



研究活動等

■科学研究費補助金・基金助成金 (令和6年度)

基盤研究 (A)	1件
基盤研究 (B)	4件
基盤研究 (C)	23件
若手研究	1件

■競争的資金 (令和6年度)

8件

■共同研究 (令和6年度)

民間等との共同研究	15件
共同研究 (産学官協働研究)	4件

■奨学寄附金 (令和6年度)

50件

■GEAR5.0 未来技術の社会実装教育の高度化

GEAR5.0 マテリアル中核拠点校	1件
GEAR5.0 エネルギー・環境ユニット協力校	1件



地域貢献・地域開放事業



男女共同参画推進活動

- ◆変幻自在のプラスチック素材! UVレジンやプラカップでオリジナルアクセサリー作り挑戦!
(リコチャレ・鈴鹿市)

中学校への出前授業

鈴鹿市等の教育委員会と連携して実施しています。授業を受けた参加者からは理科が好きになったなどの声が多く聞かれます。

ものづくり体験教室（中学生向けの公開講座）

- ◆機械工学のひとこま
- ◆楽しいAIロボット実習
- ◆マイコン電子制御
- ◆身のまわりのおもしろ化学実験
- ◆マテリアルサイエンスツアー
- ◆酵母菌捜索隊～自然界から野生の酵母を探そう～
- ◆女子中学生workshop
(令和6年度実績)



研究設備利用等

地域に根ざした工業系の高等教育機関として、本校が所有する教育研究機能、知的資源、施設設備、これまで蓄積されてきた技術等をベースに、地域と密着した共同研究プロジェクトを流動的、機動的に推進します。

◆技術相談

地域貢献の一環で技術相談を実施しています。技術相談から共同研究を実施したケースもありますので、お気軽にご連絡ください。



鈴鹿高専テクノプラザ

地域企業との協働を通して、企業が技術開発を推進するとともに、地域産業界・地域社会と鈴鹿高専が緊密な連携をとって、学の持つ人的・知的能力を社会に役立て、県内の地域枠を越えた産学官の連携体制を構築することが重要です。この連携により、ものづくり企業の発展に寄与するとともに、鈴鹿高専の教育研究の振興を図るために2012年に「鈴鹿高専テクノプラザ」を設立しました。



合同業界説明会



教育活動等

国際交流

学術交流協定を結ぶオハイオ州立大学（アメリカ）、ジョージアンカレッジ（カナダ）及び交換留学生プログラム協定を締結したトゥルク応用科学大学（フィンランド）と学生派遣・受入や語学研修等を通じて交流を深めています。

また、マレーシア、インドネシア、モンゴル、フィンランドからの留学生を受け入れ、活発な国際交流を促進しています。



課外活動

授業で学んだ専門的な知識を応用し、実際に「ものづくり」を行うエコカープロジェクト、ロボコンプロジェクト、プロコンプロジェクト、GCONプロジェクトなどの他、体育系、文科系のクラブ活動や同好会があり、各種コンクールやコンテスト、大会に参加し優秀な成績を収めています。

卒業後の主な進路

進学先

学科

鈴鹿高専専攻科、北海道大学、室蘭工業大学、東北大学、筑波大学、埼玉大学、千葉大学、東京農工大学、東京科学大学、お茶の水女子大学、横浜国立大学、長岡技術科学大学、金沢大学、山梨大学、信州大学、名古屋大学、名古屋工業大学、豊橋技術科学大学、三重大学、京都工芸繊維大学、大阪大学、奈良女子大学、岡山大学、高知大学、九州大学、東京都立大学、大阪公立大学 他

専攻科

東北大学大学院、東京科学大学大学院、名古屋工業大学大学院、三重大学大学院、九州大学大学院、奈良先端科学技術大学院大学 他

就職先

旭化成（株）、味の素（株）、アステラス製薬（株）、出光興産（株）、エーザイ（株）、NECソリューションイノベータ（株）、（株）エヌ・ティ・ティ・エムイー、NTTコムエンジニアリング（株）、カゴメ（株）、川崎重工業（株）、関西電力（株）、関東化学（株）、キオクシア（株）、キャノンメディカルシステムズ（株）、キリンビール（株）、コベルコソフトサービス（株）、サントリースピリッツ（株）、CTCテクノロジー（株）、ジャパンマリンユナイテッド（株）、昭和四日市石油（株）、スズキ（株）、住友電装（株）、住友ファーマ（株）、（株）セゾン情報システムズ、第一工業製薬（株）、第一三共プロファーマ（株）、太陽化学（株）、ダイキン工業（株）、中部電力（株）、（株）DeNA、東海東京フィナンシャルホールディングス（株）、東海旅客鉄道（株）、（株）トヨタシステムズ、ナブテスコ（株）、日東電工（株）、パナソニック（株）インダストリー社、パナソニック（株）エレクトリックワークス社、パナソニック（株）くらしアプライアンス社、（株）日立社会情報サービス、富士電機（株）、武州製薬（株）、本田技研工業（株）、三菱電機（株）名古屋製作所、三菱電機ビルソリューションズ（株）、（株）ミルボン、美和ロック（株）、（株）村田製作所、雪印メグミルク（株）、（株）LIXIL 他



施設紹介

図書館

所蔵図書は約12万冊あり、専門図書に限らず一般図書も多数所蔵しています。

また、一般の方々に生涯学習の場として開放しています。(学校行事、長期休業期間等で休館日・時間の変更がありますので、ホームページか電話で確認してください)

開館日 平日 9時～19時

休館日 土曜、日曜、祝日

〈連絡先〉図書館 Tel: 059-368-1733



学寮

構内に4棟からなる学寮があります。各居室にはエアコン、有線LANが整備され、寮生は恵まれた環境の中で勉学に励みながら共同生活を送っています。

学寮は教育寮として、規則正しい生活訓練を通じて、学生の人間形成を支援し、学生の自主的学習を促し、本校の教育目標達成に資する教育施設でもあります。そのため、毎日、教員が当直寮監として指導にあたり、規律ある生活が出来るように配慮されています。



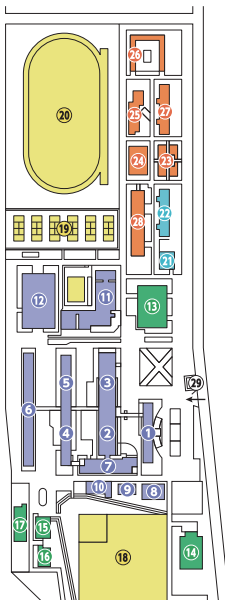
研究施設等

- ◆ 共同研究推進センター
- ◆ 情報処理センター
- ◆ 青峰会館 (学生食堂他)
- ◆ クリエーションセンター
- ◆ イノベーション交流プラザ 他



校内 地図

- ◆ 敷地面積
120,551㎡
- ◆ 建物延面積
38,417㎡

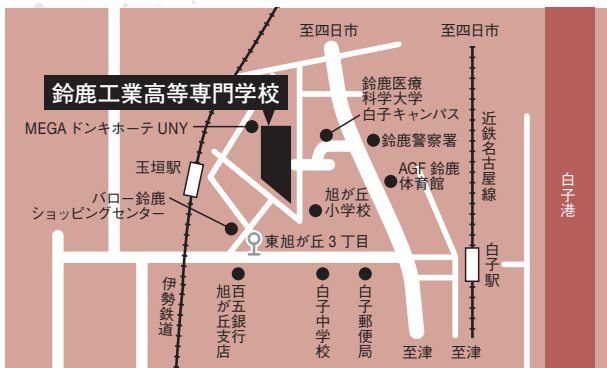


- 1 総務課・学生課・教養教育科
- 2 生物応用化学科
- 3 教室
- 4 電気電子工学科
- 5 材料工学科
- 6 機械工学科
- 7 電子情報工学科
- 8 専攻科
- 9 材料分析室
- 10 共同研究推進センター
- 11 情報処理センター・図書館
- 12 クリエーションセンター
- 13 第1体育館
- 14 第2体育館
- 15 剣道場(修道館)
- 16 柔道場(弘道館)
- 17 弓道場(志誠館)
- 18 野球場
- 19 テニスコート
- 20 陸上競技場
- 21 青峰会館
- 22 イノベーション交流プラザ
- 23 寮管理棟・浴室
- 24 寮食堂
- 25 青峰寮A・寮事務室
- 26 第1青峰寮
- 27 第2青峰寮
- 28 第4青峰寮
- 29 守衛室



アクセス

近鉄名古屋線白子駅下車、三重交通バス白子駅西口から平田町駅行
又は鈴鹿サーキット行に乗車約10分、東旭が丘3丁目下車、徒歩約7分



入試について

募集人員

- | | |
|--------------|--------------|
| ■機械工学科／40名 | ■生物応用化学科／40名 |
| ■電気電子工学科／40名 | ■材料工学科／40名 |
| ■電子情報工学科／40名 | |

推薦による入学者の選抜

- 願書の受付 ／令和7年12月25日(木)、26日(金)、令和8年1月5日(月)
 検査日 ／令和8年1月17日(土)
 検査会場 ／鈴鹿工業高等専門学校
 選拔出願資格／内申点が110点以上
 選抜の方法 ／調査書及び面接等により総合的に判定します。
 合格者発表 ／令和8年1月23日(金)

※推薦で不合格となったとき、出願書類の再提出及び検定料の再納付をすることなく、学力検査を受けることができます。

学力検査による入学者の選抜

- 願書の受付 ／令和8年1月26日(月)～1月29日(木)
 検査日 ／令和8年2月8日(日)
 検査会場 ／鈴鹿工業高等専門学校
 選抜の方法 ／学力検査
 (理科、英語、数学、国語、社会)
 及び調査書の結果で判定します。
 合格者発表 ／令和8年2月20日(金)



鈴鹿高専ポケットガイド2025

発行 令和7年5月

独立行政法人国立高等専門学校機構 鈴鹿工業高等専門学校

〒510-0294 三重県鈴鹿市白子町

TEL：059-386-1031 (代表)

FAX：059-387-0338

<https://www.suzuka-ct.ac.jp/>

